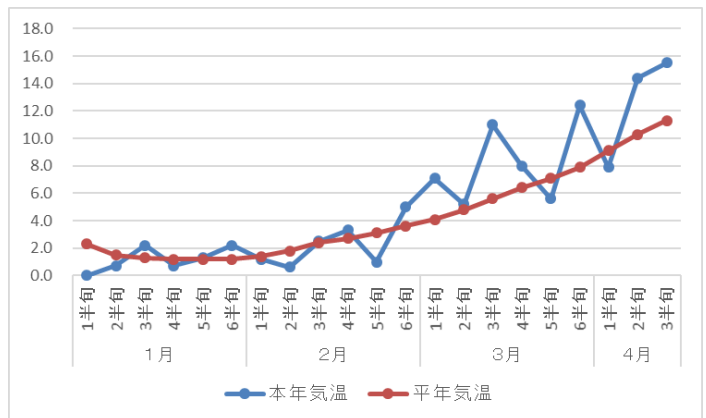


- ・低温や高温により不稔の発生が懸念されます。
- ・赤かび病の適期防除をしっかりと行いましょう！！

1 生育情報

年明けは気温が低く生育が停滞したものの、2月第6半旬以降の平均気温は、概ね平年より高く推移したため生育が進み、現在、出穂期を迎えたほ場が多く見られます。(時期としては平年並)

また、4月2日に低温、4月10日に高温がありました。そのため、不稔の発生が懸念されます。



4月2日(土)

アメダス地点	最低気温 (°C)	-1°C以下の経過時間
真岡	-2.6°C	4時間10分

4月10日(日)

アメダス地点	最高気温 (°C)	25°C以上の経過時間
真岡	26.8°C	4時間40分

不稔が発生しやすい条件

- ① 出穂の8~10日前頃の低温 (-1.0~-1.5°Cの低温に3~4時間遭遇)
- ② 出穂前後に25°C以上の高温に遭遇
- ③ 出穂期前後の降霜

2 今後の管理

◎赤かび病防除

- ・麦類は穂ばらみ期~出穂期前後の低温や高温で不稔が発生すると、赤かび病にかかりやすくなります。
- ・また、4月21日 気象庁発表の関東甲信地方の1ヶ月予報は、気温の高い確率が60%、降水量が多い確率が50%です。今後は高温・多雨による赤かび病の発生が懸念されますので、**適期を逃さず、赤かび病の防除をしっかりと行いましょう。**

麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦	穂揃い期 7~10 日後	1 回目の 7~10 日後に 2 回目散布
六条大麦	開花始めと 1 回目の 10 日後に 2 回目散布	3 回目散布
小麦	開花始めと 1 回目の 20 日後に 2 回目散布	3 回目散布

※穂揃い期：全茎の 80~90%が出穂した日

※開花始め：抽出した葯を初めて認めた日（六条大麦では出穂期の 3 日後頃、小麦では出穂期の 7~10 日後頃）

○排水対策

- ・今後の降雨に備え早期に明きよの整備を行い（溝や出口が土や泥で埋まっていたらさらう等）、排水の確認をしましょう。
- ・出穂期以降の湿害は、収量や整粒歩合の低下、細麦など粒の充実を阻害してしまいます。



4月~6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。
高齢者の事故が多発しています！余裕を持った作業を心がけましょう。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する